



No.18 学校図書館 司書だより

2014年2月

図書館クイズ

今年度、4月から2月の間に、市内の小学校9校の学校図書館で貸出された本の冊数は合わせてどのくらいでしょうか？

- ①約5万冊
- ②約10万冊
- ③約20万冊

本と読書

鈴木 由美

読書の初体験は幼い頃の父の読み聞かせでした。家にいるときはいつも読書しているぐらい本の好きな父は、語りの名人でもあり、その読み方が表現豊かで、弟などは悲しい場面になると決まって涙をふくタオルを取りに行っていました。

読んでくれたのは昔話や廣介童話だったと思います。話の内容はあまり覚えていませんが父の声やその読み方はずっと私の心の奥に残っています。そのせいか小学校のころは音読が好きで宿題でもないので家でよく国語の教科書を声に出して読んでいたのを覚えています。朗読に興味を持ったのもそのせいかもしれません。でも読書には興味がないまま大人になってしまいました。成長期にもっといろんな本を読んでいたら想像力や読解力がもう少しついていただろうと悔やまれます。

子どもが生まれてからは毎日のように読み聞かせをしました。読み聞かせが私の読書であり、いろんな絵本や児童書に出会うこともできました。

でも本当に読書がおもしろいと思うようになったのは、友達に誘われて地域の読書サークルに入ってからでした。

一冊の本を本好きの友達とあれこれ感想を語り合っていると、不思議と一人で読んでいた時にははつきりとしなかった自分の感想が他人の感想を聞いているうちに段々はつきりとしてくるのです。「そうそう私もそう思った」とか、「いや、そうは思わなかった」とか、さらに深く考えるようになってその本を何倍も楽しむことができた気がします。テーマブックも自分一人では絶対に読まないような本を読むことで新しい発見ができ視野が広がります。人によってそれぞれ感じ方が違い、いろんな受け取り方があるということもわかります。

面白い本を読んだら誰かに話したくなるし、他人が読んで面白かった本を教えるほしいと思います。世間で話題になった本やベストセラーになった本も読んでみたくなります。

一人で好きな時に好きなだけ読めるのが読書の醍醐味です。でも仲間と一緒に読むとまた違う味わい方ができるので、これからもひとり読書と仲間読書を一緒に楽しんでいきたいと思っています。

鈴木さんは、美濃加茂市の学校司書として子どもたちの読書を十五年にわたって、後押ししてくださいました。中央図書館のお話ランドや、劇団「はらぺこ」で現在も活動しておられます。

読書通帳 子どもたちにふしせん



市立図書館より市内の全小学生に読書通帳が配られることになりました。

読書通帳は、自分が読んだ本の書名、感想などを書き込むもので、読書の記録として残すことができます。どんな本を読んできたのか、どのくらい読んだのかわかることで、読書への励みになると考えています。また、家庭で記入していくことになるので、家族の中で本の話題が生まれたり、読書タイム(家読(うちどく))に発展していけるのではないかと考えています。

一・二年生用では、本の感想を☆マークの数で表現できたり、三年生以上用では読んだ本の記録に「本の値段」の欄があつて「買ったつもり貯金」の気分を体験できたりと、他にも楽しい工夫がされています。

四・五月中に、各小学校で学校司書が行う図書館利用のオリエンテーションのときに、子どもたちに手渡ししていきます。お楽しみに！

読書タイム

市内の学校・園・施設の
子どもと読書をのぞいてみました

伊深小学校では、毎年、児童図書委員会が読書目標を決め、楽しい読書すすめています。

今年の目標は、「みんなで楽しく一萬冊読もう」。一人あたり百七十冊です。楽しい読書の

ために新しい試みも加え取り組みました。

伊深小学校の子ども達は、本が大好きです。朝登校し、用具を片付けるとすぐに図書館に来館し、本を借ります。

国語では、ひとつの学習が終わると、図書館を利用して、調べ学習をしたり、物語を作ったりします。その作品を図書館に展示すると他学年の子どもたちは興味深そうに読んでいます。

学期に一度ずつ行う図書館祭りでは、自分のお薦めの本の紹介をしました。「この本は、ここがおもしろいよ。」と友だちに薦め、友だちも自分の本を紹介するという読書の輪が広がっていきま

した。

図書委員会では、楽しい読書を展開するために、全校パス



伊深小学校

ルを作ったり、給食時間の放送でお薦めの本を紹介したり、昼休みに図書館で読み聞かせをしたりしてきました。今年度は、隣接の保育園まで何度も出向き、園児にも読み聞かせをしてきました。「こ

うしたらみんながもっと本を好きになっ

てくれるかな」とアイディアを出し合う姿が、この図書館を支えています。また、図書館司書の先生にお願いし、市立図書館から

国語学習にかかわる本を毎月何十冊も借りています。岐阜県図書館からも文庫を借り、定期的に入れ替えています。蔵書数の少ない図書館ですが、毎月新しい本が読めるということで、子どもたちも喜んで

います。地域の方の月二回の読み聞かせは、伊深小学校の伝統になっています。図書館横に掲示してある表を見ながら、「もう一度読んでみよう。」と読み聞かせをして

いただいた本を手

に取る姿をみると、本当に本が好きなんだなと思います。まもなく、図書貸し出し数が一萬冊を越えそうです。



えほん

「ゆうだち」
あきびん 作
借成社 1050円



雷が鳴る激しい夕立、親切(?)なオオカミが困っているヤギを自宅に招き入れます。オオカミのたくらみに気づいてだんだんおかしくなっていくヤギ、それにおびえるオオカミ。ヤギとオオカミがくりひろげる命がけの歌合戦。トリニダード・トバゴ共和国の民話をもとにした絵本です。ダイナミックな絵、ヤギがくり返したうたう歌が、どんどん摩訶不思議な世界へ…ちよつとんでもない絵本かも。

物語

「いやいやえん」
中川李枝子 作
福音館書店 1365円



今朝いうことをきかないしげるは、先生に教えられて「いやいやえん」にやってきました。約束事がなにもない「ここでは楽しいはずだったのですが…」ちゅーりっぷ保育園としげる七つのお話が入っています。一九六二年の出版以来のロングセラーで、今も子どもたち

この本読んでみて!

小説

「K町の奇妙なおとなたち」
斎藤 洋 作
借成社 1260円



K町に住む少年の目線で周りの大人たちの生活の様を描いています。子どもだったから見えていたもの…。懐かしくも哀愁漂う昭和の雰囲気の中、不思議で少し不気味な世界に浸ってみて下さい。

大人むけ

「ようこそ！森のようちえんへ」
自然のなかの子育てを語る
今村光章 編著
解放出版 1470円



森のようちえん発祥の地デンマークの保育の様子を海外視察報告会でも聞いたことがある。子どもたちは自然の中であそびを作りだし、保育者はみまもりです。もちろん保護者は多少の怪我には寛容で、子どもの育ちに関心を持っています。さて日本はどうでしょう。市役所職員の有志で組織された、里山再生プロジェクトではこの森のようちえんもテーマとなっています。

図書館クイズの答え:③貸し出された本は215,450冊にもなりました。一人平均にすると約63冊になります。中学校では平均一人約2冊で学級文庫の利用が中心です。